

1 研究の概要

(1) 研究主題

曲のよさについて考えをもつ児童を育てる鑑賞指導の工夫
 ―楽譜を取り入れた活動を通して―

(2) 主題設定の趣旨

○音楽科における指導上の課題

国立教育政策研究所教育課程研究センターの「特定の課題に関する調査（音楽）調査結果」には、調査結果の1つとして、「音楽を特徴付けている要素と曲想とのかかわりに気を付けて聴くことは、児童にとってできやすいと回答した教師は約6割であった」⁽¹⁾ことが示されています。また、課題の1つとして、「音楽を特徴付けている要素を聴き取ることや聴き取った要素の働きと音符、休符、記号や音楽にかかわる用語とをかかわらせること」⁽²⁾が挙げられています。

このことを踏まえ、指導に当たっては、音符、休符、記号や音楽にかかわる用語の名称や意味を知ることだけではなく、音楽を特徴付けている要素を聴き取り、記号や用語を理解できるように工夫することが大切であると示されています。

○新学習指導要領における「知識」

中央教育審議会答申を踏まえ、「知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する平成20年改訂の学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育成すること」⁽³⁾を基本的な考え方の1つとして、新学習指導要領が改訂されました。

音楽科における「知識」は、「児童が音楽を形づくっている要素などの働きについて理解し、表現や鑑賞などに生かすことができるような知識である」⁽⁴⁾とされ、さらに、曲名や、音符、休符、記号や用語の名称などの知識のみを指すものだけではなく、音楽に対する感性などを働かせて、実感を伴いながら理解したものであり、個々の感じ方や考え方等に応じて習得されたり、新たな学習過程を通して更新されたりしていくものであることが示されています。

また、小学校音楽科の目標の中で、「知識」の習得について「曲想と音楽の構造との関わりについて理解する」ことが位置付けられています。

○本研究の目的

音楽科の課題や新学習指導要領で求められていることを受けて、本研究では、「曲想と音楽の構造との関わりについて理解する」ことを促すために、楽譜を効果的に取り入れた指導を行いたいと考えます。

楽譜は、音楽の構造を可視化したものであり、楽譜を効果的に取り入れることで、曲から感じ取った曲想、聴き取った音楽を形づくっている要素、その関わりを根拠を見付けたり気付いたりすることができると思います。さらに、楽譜で見付けたり気付いたりした根拠を、歌ったり動作を入れたりして確かめさせることで、実感を伴った知識の習得につながれると思います。

これらのことにより、曲のよさについて考えをもつことができる児童を育成したいと考え、本主題を設定しました。

(3) 研究の目標

高学年の鑑賞領域において、曲想と音楽の構造との関わりについて理解できる児童を育成するために、楽譜を取り入れた指導方法の工夫を探る。

(4) 研究の仮説

高学年における鑑賞領域において、楽譜の特徴に気付くことを促す活動をしたり、楽譜を取り入れたワークシートを工夫したり、ワークシートの使い方を確認したり、楽譜で見付けたことや気付いたことを確かめさせたりすれば、曲想と音楽の構造との関わりについて理解を促すことができるであろう。

(5) 研究方法と内容

ア 新学習指導要領で曲想と音楽の構造との関わりについて、先行研究で楽譜を取り入れた指導方法について探ります。

イ 曲想と音楽の構造との関わりへの理解の程度について、第5学年の児童の実態を調査し把握します。

ウ 授業実践を通し、聴き取ったことや感じ取ったこと、その関わりについて理解するための、楽譜を取り入れた指導方法の工夫について、その有効性を検証します。

《引用文献》

- (1)(2) 国立教育政策研究所 『特定の課題に関する調査（音楽）調査結果』 平成 22 年 7 月 p. 32
(3)(4) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説音楽編』 平成 29 年 7 月 p. 3, p. 12